

## しょうがくせい みな 小学生の皆さん

きょう そうりつしゃせい いわ び ぜんこうじどう ところ あ いの  
今日は、創立者聖マグダレナ・ソフィアのお祝い日です。オンラインで全校児童が心を合わせてお祈りする  
ことと思います。聖マグダレナ・ソフィアも現代ならではの方法に感心し、喜んでおられることでしょう。

ところで、今日の写真は何かわかりますか。ジョアニーにある聖マグダレナ・ソフィアが生まれた家の一室、  
10代半ばでパリに行くまでソフィー（聖マグダレナ・ソフィアの子どもの頃の呼び方）が使っていた部屋の  
まど 窓です。ソフィーの部屋は、その地方独特の模様の壁紙が美しい、小さな部屋です。壁にはお兄様のルイか  
ら贈られた「イエスのみこころ」のご絵が飾ってありました。ソフィーはぶどう畑やお家でよくお手伝いをしま  
したが、それ以外は、この部屋で一生懸命勉強しました。ルイがソフィーにさせた、たくさんの勉強にしっかり  
と取り組んでいたのです。

ときどき て やす まど そと ようす み まど さき やくしょ  
時々、手を休めては、この窓から外の様子を見ていたことでしょう。この窓の先には、ジョアニーの役所の  
たてもの 建物があります。町の中心です。ソフィーが 10歳になる 5 か月前にフランス革命（多くの人々が今までの  
しゃかい ちから か はじ なみ とうぜん およ  
社会を力づくで変えようとしたこと）が始まり、その波は、当然、このジョアニーにも押し寄せてきました。  
やくしょ たてもの ようす お き おさな ところ いた ちが  
役所の建物あたりの様子からただならぬことが起こっていることに気づき、幼い心を痛めていたに違いあ  
りません。ソフィーは革命で混乱する社会を、一部始終、この窓を通して眺めていたのです。

ねんまえ おとす まど そと なが とき せい そと しゃかい み  
2年前にジョアニーを訪れ、この窓から外を眺めた時、聖マグダレナ・ソフィアにとって外の社会を見ていた  
といえるこの窓に、とても心惹かれました。部屋という自分の世界と外の世界をつないでくれる窓です。もち  
ろん、ソフィーの内側の世界、部屋の中心は「イエスのみこころ」です。神様の無限の愛、慈しみの心をすべ  
しめ て示して下さった「イエスのみこころ」。その「みこころ」にしっかりとつながりながら、しゃかい む あ かな  
みや痛みを人々と共にし、自分自身の使命に目覚めていった、そんなソフィーの魂が今もその部屋に生き  
ているようでした。

しんがた せかいじゅう こんらん れきしてき とき い ひとり ところ まど  
新型コロナウイルスで世界中が混乱しているという歴史的な時を生きている一人として、それぞれの心の窓  
とお しゃかい せかい なが じぶん い かた よ  
を通して社会や世界を眺め、自分はどんな生き方に呼ばれているのか  
かんが えてみましょう。きっと聖マグダレナ・ソフィアは、「窓から外を眺め  
てごらん下さい」とおっしゃっていると思います。

